

# 道路と経済発展



北海道工業大学 土木工学科

教授 笠原 篤

社会資本の整備状況と経済発展との間に密接な関係があることは容易に想像がつく。道路は、効率的かつ経済的な移動と国際的な競争力確保のために重要であり、とりわけ、開発途上国においては農産物の流通や健康、教育、その他のサービスの提供に大きな役割を果たしている。ここでは、W.R.Hudson, R. Haas, W. Uddin著の『インフラストラクチャー・マネジメント』に述べられている舗装道路と経済発展の関係を見てみよう。

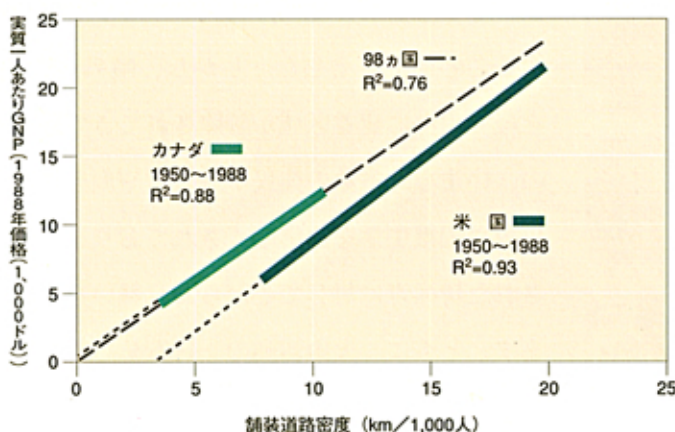


図1 米国、カナダ、途上国98カ国のデータの比較

1992年の世界銀行の研究によれば、図1に示すように、舗装道路密度 (LPR: 1,000人当たりの舗装道路延長 [km]) と1人当たりの国民総生産 (PGNP [US\$ 1,000]、1982年価格) との間には、アメリカ、カナダ、開発途上国98カ国において、非常に高い相関があることがわかる。98カ国とカナダの2つの式はほとんど一致しているが、アメリカでは、舗装道路密度が他の諸国より約13%高くなっている。

図2は、舗装道路密度 (LPR) と国民総生産 (PGNP) との年数差について検討した結果である。

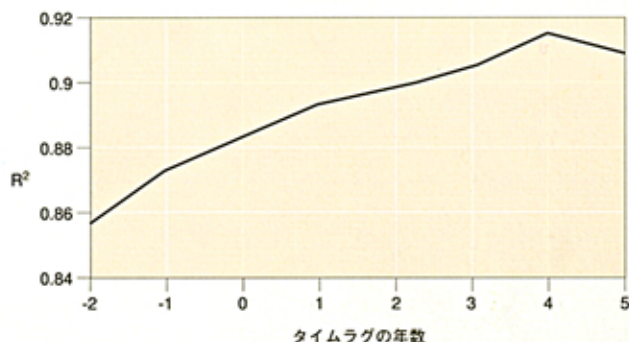


図2 実質一人あたりGNPとタイムラグを設定した舗装道路密度の相関関係

ここでは、タイムラグが4年のときに相関が最も高い (舗装道路投資の結果、約4年後にGNPが増加する) ことが示されている。

一方、社会資本の維持管理投資の縮減は、施設の状態に大きな影響を与えることも知られている。それについては、コロラド大学のレポート、『困難な選択：アメリカにおける社会資本需要の増大と投資能力との格差の広がりについて』のなかでアメリカ23州を対象に詳細に検証されている。その報告では、州および地方の社会資本整備予算が、1961年の対GNP比2.2%から1982年には1.9%まで減少し、他の地域でも同様の状況にあることが示されている。アメリカ全体で、社会資本整備に必要な事業量と投資可能な予算との間のギャップは4,500億USドル (1982年価格) であり、最も必要性・緊急性が高い社会資本は道路と橋梁であると結論付けられている。

ここで見たように、道路への資本投資は、経済に非常に大きな影響を与えていることから、決して縮減してはならないと結論される。